



# ヴォーリスを 未来へ

来日120年、その想いをつなぐー



ヴォーリス来日120年記念事業「バンザイなこっちゃん!」協議会

ヴォーリス来日120年記念事業 報告書

米素直



発行

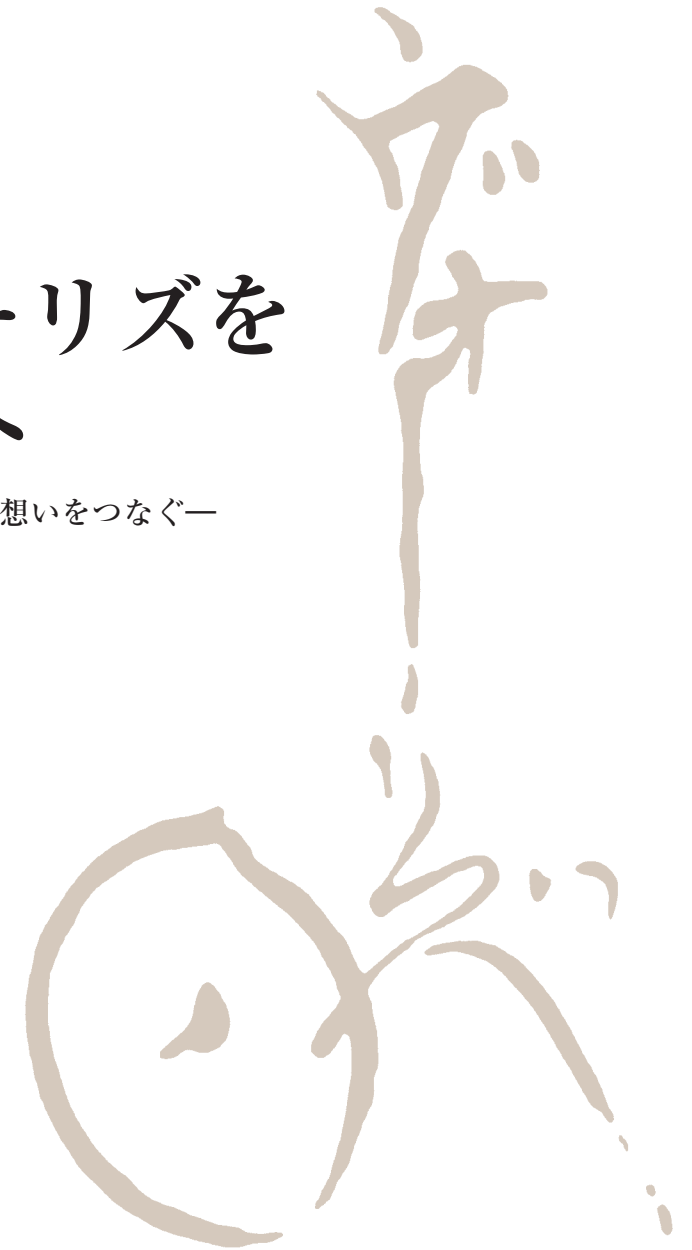
ヴォーリス来日120年記念事業「バンザイなこっちゃん!」協議会

お問い合わせ先:

一般社団法人 近江八幡観光物産協会 〒523-0864 滋賀県近江八幡市為心町元9-1(白雲館内)  
TEL:0748-32-7003 FAX:0748-31-2393 <https://www.omi8.com/> <https://www.facebook.com/omi8kb>

# ヴォーリスを 未来へ

来日120年、その想いをつなぐー



## 目次

---

- 03 まえがき
- 04 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ年譜
- 07 ヴォーリズ来日120年記念事業 記念講演 第1回～第6回
- 25 ヴォーリズ来日120年記念事業 フィールドワーク事業
- 36 ヴォーリズ氏と満喜子夫人の歩みを、全国へ
- 37 結びに代えて

## まえがき

---

1905(明治38)年2月2日、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880-1964)は現在の近江八幡駅に降り立ちました。昨年(2025年)はそれから120年という記念の年であり、ヴォーリズ氏が召天してからはすでに61年が過ぎています。

志を抱いて来日した一人の青年の歩みは、やがて多くの協働者を得て、その活動は近江八幡のみならず全国へと広がりました。彼の働きはキリスト教伝道やYMCA活動にはじまり、建築、製薬、医療、教育、福祉と多岐にわたります。

彼は近江八幡、そして滋賀、日本を深く愛し、日本へと帰化して「一柳 米来留(ひとつやなぎ めれる)」となりました。明治・大正・昭和の時代を私たちと共に生き抜いたその精神は、彼が遺した近江ミッション(近江兄弟社)のみならず、今なお国内外で共鳴する仲間たちに継承されています。

私たちは2024年10月28日のヴォーリズ氏の誕生日に、ヴォーリズ来日120年記念事業「バンザイなこっちゃ！」協議会を発足させました。2025年2月2日から12月7日にかけて、6回の記念講演を開催したほか、ゆかりのある団体や個人の交流会、展示会、フィールドワーク、北米や韓国への旅など多彩な企画を催行しました。近年では、ヴォーリズ氏と満喜子夫人の生涯を「連続ドラマに」と願う声も高まっています。

本ブックレットは、この1年間に同志の皆様と協働してきた活動の報告です。これが、ヴォーリズ氏らが目指した「愛と平和に満ちた、共に生きる社会」への願いをつなぐ一助となれば幸いです。

\*ヴォーリズ来日120年記念事業「バンザイなこっちゃ！」協議会はヴォーリズさんがうまくいっただ時、嬉しい時に笑顔で発していた言葉から命名しました。

ヴォーリズ来日120年記念事業「バンザイなこっちゃ！」協議会  
報告書編集委員会

## ウィリアム・メレル・ヴォーリズ年譜



1880(明治13)年10月28日	アメリカ・カンザス州レブンワースで、父ジョン・ヴォーリズ、母ジュリアの長男として生まれる。
1882(明治15)年	この頃から両親に伴われて長老教会の礼拝に出席し、幼児洗礼を受ける。音楽や絵画に興味を持ち、病弱な幼少期を過ごす。
1888(明治21)年	アリゾナ州フラッグスタッフへ一家で転居。
1896(明治29)年	コロラド州デンバーへ一家で転居。
1900(明治33)年	イースト・デンバー高校を卒業。コロラドカレッジに入学。YMCA活動を開始。
1902(明治35)年	カナダのトロントで開かれた「海外伝道学生奉仕団(SVM)」第4回世界大会にコロラドカレッジ代表として出席。テイラー女史の講演に感銘を受け、外国伝道への献身を決意。
1904(明治37)年	コロラドカレッジを卒業。コロラドスプリングスYMCA主事補となる。伝道のため、ニューヨークの国際YMCA本部に海外での就職先を依頼。日本の学校が英語教師を求めているとの紹介を受け、応諾。
1905(明治38)年1月	サンフランシスコ港から出港し横浜港に到着。来日。
1905(明治38)年2月2日	近江八幡に到着。滋賀県立商業学校(現:滋賀県立八幡商業高校)の英語教師として赴任。後、ヴォーリズ宅(魚屋町元)にてバイブルクラスがはじまる。吉田悦蔵等がヴォーリズ宅で共同生活を開始し、彼らはヴォーリズと行動を共にするようになる。
1907(明治40)年2月	「八幡基督教青年会館」(YMCA)竣工式。
1907(明治40)年3月	キリスト教伝道の理由で、英語教師解任。独立伝道者に転じ、副業に建築設計監督を開業(後のヴォーリズ建築事務所)。
1907(明治40)年4月	『The Omi Mustard Seed』創刊。
1908(明治41)年10月	京都YMCA会館建築工事に際し現場監督を担当し、建設設計監督事務所を開設(京都では翌年12月まで)。
1910(明治43)年12月	ヴォーリズ合名会社設立(設立発起人はヴォーリズ、チェーピン、吉田悦蔵の3名)。
1910(明治43)年	近江ミッション設立。
1912(明治45)年7月	キリスト教伝道誌『湖畔の声』創刊。
1914(大正 3)年9月	伝道船「ガリラヤ丸」進水。
1916(大正 5)年2月	「近江ミッション綱領」策定。



1918(大正 7)年3月	近江基督教慈善教化財団設立。
1918(大正 7)年5月	結核療養所として近江療養院(近江サナトリウム※現:ヴォーリズ記念病院)を開院。
1919(大正 8)年6月	子爵・一柳末徳の三女 満喜子と結婚。
1920(大正 9)年4月~8月	大同生命ビル建築計画のため広岡恵三らと渡米し米国建築を視察。
1920(大正 9)年12月	ヴォーリズ合名会社を解散し、近江セールズ株式会社を設立。建築材料やメンソレータム(現:近江兄弟社メンターム)を本格的に取扱い開始。同時にヴォーリズ建築事務所を設立。
1922(大正11)年8月	近江ミッションによる清友園幼稚園が認可される。
1930(昭和 5)年6月	母校コロラドカレッジより名誉法学博士の称号を授与。
1930(昭和 5)年	同志社大学社友に推薦される。
1931(昭和 6)年	ヴォーリズ邸(現:ヴォーリズ記念館)、メンソレータム(現メンターム)八幡工場が完成。
1934(昭和 9)年2月	「近江ミッション」を「近江兄弟社」と改称。
1940(昭和15)年	近江基督教慈善教化財団を財団法人近江兄弟社と改称。
1941(昭和16)年1月	日本に帰化し、「一柳米来留」と改名。
1946(昭和21)年8月	近江療養院を近江サナトリウムと改称。
1951(昭和26)年	学校法人近江兄弟社学園設立。ヴォーリズが学園の理事長、満喜子が学園長に就任。
1951(昭和26)年	『失敗者の自叙伝』の草稿起筆。
1954(昭和29)年11月	社会公共事業に対する功績により、藍綬褒章を受章。
1957(昭和32)年8月	軽井沢でくも膜下出血のため倒れ、近江八幡の自宅に帰り、療養生活に入る。
1958(昭和33)年8月	近江八幡市名誉市民第1号に推される。
1960(昭和35)年	日米修好通商百周年に功労者として顕彰を受ける。
1961(昭和36)年11月	建築界への功績により、黄綬褒章を受章。
1964(昭和39)年5月7日	永眠(享年83)。正五位勲三等瑞宝章を受ける。
1964(昭和39)年5月	近江八幡市民葬と近江兄弟社葬との合同葬となり、遺骨は恒春園に(両親と共に)眠る。

ヴォーリス来日120年記念事業

# 記念講演

第1回～第6回

ヴォーリス氏来日120年を記念し、2024年10月28日の彼の誕生日に「ヴォーリス来日120年記念事業『バンザイなこっちゃ!』協議会」が発足いたしました。2025年度に開催された全6回の記念講演は、いずれも氏の精神を現代に問い直す貴重な機会となりました。

本章では、その熱気あふれる講演内容をダイジェスト版としてお届けします。

ヴォーリズ来日120年記念事業  
第1回(2025年2月2日)

基調講演

# 「いま、なぜヴォーリズさんなの？」

来日(来幡)120年を迎えて益々高まる「ヴォーリズ人気」。ヴォーリズは基督教の「隣人愛」を基盤に様々な事業や活動を自ら「世界の中心」と呼んだ近江八幡で展開してきた。彼のキャッチフレーズであった「近江を神の国に」は現在では「愛と平和に満ちた共に生きる社会をめざして」という言葉に置き換えることができる。基調講演では、内田 樹 氏から氏が永年教鞭をとったヴォーリズ建築キャンパスでの経験を踏まえて多様な側面から「いま、なぜヴォーリズさんなの？」のテーマで語っていただいた。また、トークセッションでは来日時のヴォーリズの年齢に近い若年青年と各方面の教育者からヴォーリズの理想とその実践について語り合っていたいただいた。

基調講演

神戸女学院名誉教授・凱風館館長 内田 樹 氏

いまヴォーリズを取り上げる理由は、彼の建築が単なる外観や様式の美しさにとどまらず、「人への気配り」に満ちた学び舎であることを実感できるからだ。内田氏は21年間ヴォーリズ建築で教え、声の響きや居心地の良さを通して、学生が自然に発話し思考する環境の重要性を体験した。ヴォーリズは基督教の宣教師で教師でもあり、声の通りや倍音の響きを意識して設計したため、使用者が長く快適に過ごせる建物を生み出した。このように、現在においても教育や人間関係の在り方を考えるうえで、彼の志と建築精神から学ぶ価値がある。

彼の建築は単に美しいだけでなく、音声環境に極めて配慮され、倍音を豊かに響かせる設計になっている。日本語の母音中心の発声に最適化され、声の微細な波動や沈黙の意味まで伝わる。学生はこの環境の中で自分の「ボイス」を発見し、自然に発話や表現力を獲得できる。現代の音声無関心の社会では、こうした空間は希少であり、教育的価値と人間への深い配慮が際立つ。建物そのものが学びを支え、長期にわたり人を育てる「贈り物」となっている。

ヴォーリズの建築は、利用者の好奇心や創造力を刺激する仕掛けに満ち、普段見慣れた景色や空間を新しい角度で発見させる教育的な工夫がある。学生や研究者が中を歩くことで建物と対話し、自ら学ぶ力や知性を育むことができる。このように、建築そのものが人を育てる贈り物となっており、現代の建築では稀有な、人への温かい気遣いと学びの精神を体現している。

トークセッション

神戸女学院名誉教授・凱風館館長 内田 樹 氏  
元関西学院院長 田淵 結 氏  
ヴォーリズ学園副学園長 安川 千穂 氏  
滋賀 YMCA 勤務 デレク アントニー スpensジュニア 氏  
立命館大学卒 寺田 百花 氏

ヴォーリズが来日して120年が経ち、直接彼を知る世代は減少し、記録や建築、研究を通じて再現・共有する時代になったため、改めて彼の活動や思想に向き合う必要がある。彼の活躍は建築家にとどまらず、教育者、企業家、宣教師、音楽家など多岐にわたり、文化や宗派の違いを越えて人やコミュニティをつなげる包容力を持っていた。現代では他者への寛容さや多様な経験の価値が失われつつある中、ヴォーリズのような存在が示す好奇心、挑戦心、信念、コミュニケーションの重要性を学ぶことが、未来の教育やまちづくりに活かせるからこそ、いま彼に注目する意義がある。



登壇者



神戸女学院名誉教授・凱風館館長  
内田 樹 氏



元関西学院院長  
田淵 結 氏



ヴォーリズ学園副学園長  
トークセッション司会  
モデレーター  
安川 千穂 氏



滋賀 YMCA 勤務  
デレク アントニー  
スpensジュニア 氏



立命館大学卒  
寺田 百花 氏

ヴォーリス来日120年記念事業

第2回 (2025年4月26日)

テーマ

## 「乙女建築なヴォーリスさん」

～ヴォーリスさんと旅の楽しみ～

各地の人気スポットとして定着している「ヴォーリス建築」。近年ではその保存再生の営みの中で「ヴォーリス建築」は単に建築の仕様のみに注目されているのではなく、新たな物語と価値を生み出している。文筆家の甲斐みのり氏は今までになかった視点で「ヴォーリス建築」の魅力を紹介し多方面に発信している。

甲斐みのり氏と写真家である桃井一至氏によるトークセッションではさらに「ヴォーリスさんと旅の楽しみ」の幅を広げる体験をふんだんに語っていただいた。

### 基調講演

文筆家 甲斐みのり氏

甲斐みのり氏は、ヴォーリス建築との出会いをきっかけに、建築を軸とした旅の楽しみが広がっていった体験を語る。京都の駒井家住宅のイベントで建築と食を結びつけた体験から、街歩きや名建築巡りに魅了され、ヴォーリスを知り、山の上ホテルを訪ねたことで、旅はクラシックホテルや各地の建築へと展開した。建物の歴史や意匠を味わい、泊まり、食べ、買い、想像を巡らせることで、旅は単なる見学にとどまらず、人生を豊かにする体験となる。ヴォーリス建築は「知って終わり」ではなく、自分なりの楽しみ方を見つけ、旅や暮らしへと世界を広げてくれる存在なのである。

続けて、駒井家住宅への好奇心を起点にヴォーリス建築と出会い、山の上ホテルへの宿泊体験を通して、建築を軸に旅を広げてきた歩みが語られた。若き日に憧れのホテルに泊まれなかった経験は、「いつか似合う自分になりたい」という原動力となり、創作や旅へとつながった。ヴォーリス建築巡りは、乙女心でときめきを感じ、自分だけの価値＝星を加点していく「推し活」の旅であり、建築を見るだけでなく、泊まり、食べ、買い、装い、物語を重ねて楽しむものだという。そうした体験の積み重ねが、人生を豊かにし、建築の未来を支える力になるのである。

ヴォーリス建築を「旅の目的地」としてだけでなく、街歩きや日常の楽しみへと広げる視点も紹介された。大丸心斎橋では百貨店をヴォーリス建築として味わい、館内の意匠や解説、限定菓子を通して会話や旅の縁が生まれる体験が語られた。京都の東華菜館では、床や屋上ビアホールなど、季節ごとに変わる表情を楽しみ、建築と食を組み合わせた旅が提案されている。また、ヴォーリス事務所が手がけた新旧の建築、抽選制で訪れる大丸ヴィラ、神戸のフロインドリーブなども挙げられ、見る・食べる・集うといった多様な体験が連なって、ヴォーリス建築の旅が立体的に広がる魅力が示された。

関西学院大学や軽井沢ユニオンチャーチ、近江八幡の町並みなどを巡る体験を通じ、ヴォーリス建築が旅の楽しみを多方面へ広げてくれることが語られた。大学キャンパスや教会、喫茶店、学校、住宅、

宿泊施設まで、建築を訪ね歩き、食べ、学び、人と会うことで、旅はより立体的になるのである。ヴォーリス建築は、過去の遺産にとどまらず、今も生きる場として人を迎え入れ、平和や共生の思想を体感させてくれる存在である。建築巡りを通じて「好き」を集め、分かち合うことが、人生を豊かにし、平和につながる旅になるのである。

### トークセッション

文筆家 甲斐みのり氏

写真家 桃井一至氏

トークセッションでは、甲斐みのり氏と写真家・桃井一至氏(ヴォーリス学園幼・小・中・高卒)が、「ヴォーリスさんと旅の楽しみ」を軸に、建築を通して広がる体験や記憶を語り合った。司会をつとめた川邊暁美(神戸女学院卒)氏も、自身の経験から神戸女学院のヴォーリス建築について解説した。

ヴォーリス建築は、単なる鑑賞対象ではなく、泊まる・食べる・歩く・撮るといった行為を通じて、次の旅先や物語へと人を導く存在である。尾道の宿(白滝山荘)や山の上ホテル、駒井家住宅、東華菜館、大丸心斎橋店、神戸女学院、関西学院大学、近江八幡の療養所などを巡りながら、光や風、ディテール、人の営みが重なる魅力が共有された。桃井氏は、幼少期からヴォーリス建築の中で育った経験と、写真を通して再発見した縁を語り、甲斐氏は、建築を「人」に見立て、ときめきをもって旅する楽しさを伝えた。二人の対話から、ヴォーリス建築が人をつなぎ、感性を育て、人生や旅を豊かに広げていく存在であることが浮かび上がったのである。

### 登壇者



文筆家  
甲斐みのり氏



写真家  
桃井一至氏



ヴォーリス来日120年記念事業

第3回(2025年5月31日)

テーマ

## 「世界の中心でヴォーリス サミット」

4つの講演会と「ヴォーリスサミット大懇親会」から構成された本会。1. ヴォーリスさん、近江兄弟社の活動を紹介した貴重な記録フィルムの上映。2. 初期のヴォーリスさんと活動を共にした「同志」の末裔が現在でも「ヴォーリス建築」に住まい、音楽家としてヴォーリスさん縁の楽曲を演奏。3. 現在では保存再生された「ヴォーリス建築」をロケ地として数多くのTVドラマや映画が撮影されている。その魅力を関係部署から報告していただいた。4. ヴォーリス来日120年記念として制作された地元放送局の番組は大きな話題となった。その制作の陣頭指揮を執った担当者からその経緯や秘話の披露をお願いした。

### 1限：湖国の風景とヴォーリスさんたちの働き

記録フィルム「湖畔の人々」(1937年)上映

解説：京都新聞編集委員 八幡 一男 氏

第1限では、1937(昭和12)年に制作された19分の記録映画『湖畔の人々』を上映し、ヴォーリスと近江兄弟社の活動が紹介された。映画は琵琶湖の風景から始まり、近江八幡の水郷や駅舎を映すことで、観客に地域を明確に示す。工場でのメンソレータム(現:近江兄弟社メンターム)製造をはじめ、学校や幼稚園、託児所、家政塾など、多岐にわたる事業の様子が丁寧に描かれ、地域への貢献と生活の活力が伝えられた。

映画中盤では、船上で子どもたちに迎えられるヴォーリスの姿や、日曜礼拝でオルガンを弾く様子が映し出され、その尊敬される人柄が表現されている。本作は先端技術を用いたトーキー記録映画であり、広告や教育的な意図を兼ね備えていた。映像構成や音響の工夫からは、ヴォーリスがメディアを活用して思想を人々に伝えるプロデューサー的手腕をも発揮していたことが示されたのである。

### 2限：ヴォーリス建築に住まう音楽家との縁

演奏：音楽家 宮本 謙二 氏

音楽家 吉田 桂子 氏

第2限では、ヴォーリス建築に住む音楽家・宮本謙二氏と吉田桂子氏を通じ、ヴォーリスと音楽家の深い縁が紹介された。二人はヴォーリスと活動を共にした宮本文次郎と吉田悦蔵の子孫であり、いずれも音楽家として活躍している。

演奏では、ヴォーリス作詞作曲の賛美歌236番や、ヴォーリスの愛したメンデルスゾーン《無言歌》が披露された。続いて、吉田悦蔵邸や宮本文次郎邸の建築や増築、家具、ピアノなどの内部構造や歴

史、修復の経緯が紹介され、建物がいかに当時の暮らしや音楽活動に寄り添ってきたかが語られた。庭園や家具の配置、ピアノの由来なども説明され、ヴォーリス建築は住まう人々の生活と文化を育む空間であり、音楽と建築を通してヴォーリスの人柄や生活哲学を体感できる貴重な時間となったのである。

### 3限：ヴォーリス建築を用いたロケーションあれこれ

解説：滋賀ロケーションオフィス 室長補佐 有田 高志 氏

第3限では、滋賀ロケーションオフィスの有田高志氏により、ヴォーリス建築を活用した映画・ドラマ等のロケーション活動が紹介された。2002(平成14)年に設立された同オフィスは、県内19市町と連携し、映像誘致・ロケ支援・広報宣伝の三本柱で地域振興を目指している。滋賀県は文化財や歴史的建築、自然景観、交通の利便性、協力的な県民性に加え、約8,000人のエキストラサポーターの存在もあり、多くの映像作品の撮影地に選ばれている。

特にヴォーリス建築は、温かみのある木造空間や独自のデザインで人気が高く、豊郷小学校旧校舎群や旧八幡郵便局、ツッカーハウス、五葉館などで『けいおん』(2009(平成21)年)『君の膵臓をたべたい』(2017(平成29)年)や『カムカムエヴリバディ』(2021(令和3)年)、『長崎-閃光の影で-』(2025(令和7)年)などが撮影された。これらのロケは観光誘致や地域活性化、経済波及効果にも寄与しており、今後もヴォーリス建築を活かした地域PRに尽力していく意向が示されたのである。

### 4限：『米来留 日本を愛したニッポンジン』制作について

解説：びわ湖放送(株)企画編成局長/メディア戦略室長 山口 秀富美 氏

第4限では、ヴォーリス来日120年を記念した特別番組『米来留 日本を愛した日本人』の制作舞台裏について、びわ湖放送企画編成局長の山口秀富美氏より解説された。2025(令和7)年元日に放送された本番組は、2023(令和5)年12月26日に制作指示を受け、1年をかけて企画・取材・撮影・編集が行われた大作である。ローカル局としての限られた予算や人員の中、出演者交渉やスタジオセットの工夫、スポンサー対応など多くの課題を克服し、西川貴教氏を司会に迎え、スタッフ38名、出演者50名という体制で85分の長尺番組を創り上げた。

番組は「建築・医療・教育」の三本柱で構成され、びわ湖放送制作番組としては初めてTVer配信も実施された。地域情報を県民に届ける小規模局でありながら、プロ意識をもって質の高い番組作りを目指す姿勢は、ヴォーリスがかつて示した開拓精神とも共鳴するものであった。

ヴォーリス来日120年記念事業  
第4回(2025年7月19日)

テーマ

# 「ヴォーリスさんのびっくりポン！」

各大学でヴォーリスについて研究されている3名の講師から「ヴォーリス建築」にかかわる近年の研究成果について、また「ヴォーリス建築」個々には「物語性」があり、それこそが過去、現在、未来をつなぐものであり、新たな可能性、共生社会を創る礎となることが奨励された。

## 1限：国会議事堂のドアノブってヴォーリスさん？

講師：東北学院大学准教授/メディア戦略室長 大門 耕平 氏

第1限では、東北学院大学准教授の大門耕平氏より、近江兄弟社の知られざる功績である「建築金物(ドアノブ)」に焦点を当てた研究が紹介された。大門氏は、自身の人生がヴォーリス建築と深く関わってきた経験(誕生時に実父が水口教会の牧師であった)を起点に、未公開の社史資料から、近江兄弟社が国会議事堂をはじめ日本銀行や官庁などに高品質な建築金物「OSC」を納入していた事実を明らかにした。

OSCは輸入品に頼らず国産最高品質を目指して短期間製造され、マスターキー技術の導入や「良いものを作る」という理念によって高い評価を得た製品である。しかし事業期間が短く、戦災や交換により現存数は少ないものの、現在も国会議事堂の一部や各地の建築に残る事例の調査を通じ、ヴォーリスと近江兄弟社が日本の公共建築史において果たした役割を再評価する意義が示されたのである。

## 2限：ヴォーリス建築と観光まちづくり

講師：関西学院大学名誉教授 ヴォーリス研究センター長 角野 幸博 氏

第2限では、関西学院大学名誉教授、ヴォーリス研究センター長の角野幸博氏により、観光まちづくりと建築の関係を軸に、ヴォーリス建築が持つ可能性と課題が論じられた。角野氏は、観光活用は地域活性化に期待される一方で生じるオーバーツーリズム等の課題を指摘し、建築そのものを五感で体験し、その背景にある人や出来事への共感を育む「建築観光」の重要性を説いた。

その中核となるのは、建物を舞台に紡がれてきた、あるいは今後紡がれる「物語」である。近代建築は本来観光目的で建てられたものではなく、保存・転用・建て替えの選択には所有者、管理運営体制、地域の理解が不可欠である。ヴォーリス建築は、使う人を重視した設計思想、全国に点在する建物群、そしてそれらを支える組織や熱心なファンによって「群」としての魅力を持っている。今後は建物単体ではなく、地域や他資源と連携し、設計者・施主・利用者・地域の物語を継続的に共有することで、次世代へ継承していくことの重要性が強調されたのである。

## 総括と展望

講演会の終盤では、建築保存と地域振興に関する多彩な報告が行われた。地域振興の事例としては、2026(令和8)年春から、JR西日本の寝台特急「トワイライトエクスプレス瑞風」が近江八幡駅に停車し、ヴォーリス建築や文化を紹介することで観光活性化に貢献することが発表された。また、京都・大丸ヴィラの国重要文化財内定や、明治大学による「山の上ホテル」の取得など、建築保存と活用の取り組みも示され、ヴォーリスの遺した精神が未来へと力強く引き継がれていることが確認されたのである。

※放課後としては“世界の中心でヴォーリスサミット”大懇親会が市内のグリーンホテルYES近江八幡で開催され、98名の参加者のもとさまざまな報告、交流がなされ、今後のビジョン(夢)を語り合うひと時であった。



大懇親会実施風景(2025年5月31日)

### 登壇者



京都新聞編集委員  
八幡 一男 氏



音楽家  
宮本 謙二 氏



音楽家  
吉田 桂子 氏



滋賀ロケーションオフィス  
室長補佐  
有田 高志 氏



びわ湖放送(株)企画編成局長/  
メディア戦略室長  
山口 秀富美 氏

ヴォーリズ来日120年記念事業  
第5回(2025年9月20日)

テーマ

# 「ヴォーリズさん、満喜子さんをテレビドラマに！」

ヴォーリズさん、そしてその夫人となる一柳満喜子氏は波乱万丈の人生を送ってきた。満喜子の先祖は近江八幡が城下町として成立する際、豊臣秀次の側近であった不思議な縁がある。まさにそれらの史実、経験、人格、実践は今こそ「TVドラマ」や「映画」にふさわしい。満喜子を主人公にした小説の執筆者の講演、すでに「連ドラ」モデルとなった広岡浅子に縁のある会社の役員とのトークセッションから「ヴォーリズ・満喜子を連ドラに！」の気運が大いに高まった。

## 1限：ヴォーリズタイムスリップ 一柳家と米来留さん

講師：元近江八幡市立資料館 館長 佐竹 章吾 氏

第1限では、元近江八幡資料館長の佐竹章吾氏により、近江八幡の町名研究を手がかりとした、戦国武将・一柳直末とヴォーリズ(日本名・一柳米来留)との四百年を超える系譜的なつながりが解説された。市助町(現・仲屋町)などの地名は、豊臣秀次を補佐した一柳直末(別名:市助)ら家臣に由来し、彼らが町づくりに深く関与した歴史を示している。

直末は秀吉に重用された有能な家臣であり、小田原合戦で戦死を遂げたが、その後も一柳家は播磨小野藩・伊予西条藩・伊予小松藩として存続した。満喜子はその一柳家の血筋と養子縁組の双方を引く人物であり、彼女と結婚し帰化したヴォーリズが「一柳」の姓を名乗ったことは、近江八幡と一柳家の歴史的縁が現代に結実した象徴であると結論づけられたのである。

## 2限：負けんとき ぜったいやらなあかんやん!

講師：作家 玉岡 かおる 氏

第2限では、満喜子を主人公とした小説『負けんとき』の筆者である作家・玉岡かおる氏が登壇した。玉岡氏は自身の作家経験と数々の映像化事例を踏まえ、「史実」と「ドラマ」の関係を軸に、ヴォーリズと満喜子夫妻を朝ドラとして描く可能性を論じた。

史実だけでは人の心は動かず、文学やドラマには想像力による「物語化」が不可欠であり、その過程では事実の取舍選択や脚色も避けられないことが指摘された。過去の朝ドラでは、偉人が美化され、配役によってイメージが固定される危うさや、現代的価値観から女性の活躍が過度に付加される問題も生じていた。一方、満喜子は日本社会に居場所を見いだせず渡米して新たな価値観を獲得した女性であり、ヴォーリズもまた使命と葛藤を抱えた青年であった。国際結婚、身分や国籍の放棄、戦時下での選択と献身、そして教育という「芽の出るか分からない種」をまき続けた二人の人生は、極めてドラマ性

## 3限：近江八幡とヴォーリズ建築

講師：関西学院大学 ヴォーリズ研究センター研究員 山形 政昭 氏

3限では、関西学院大学ヴォーリズ研究センター研究員の山形政昭氏より、近江八幡市における「ヴォーリズ建築と同時代の近代建築調査」を軸としたヴォーリズ建築の価値と調査の意義について語られた。近江八幡市には全国的にも稀なほど多くのヴォーリズ建築が現存しており、住宅、学校、教会、工場など多岐にわたる用途と様式が確認できる。

調査においては、建物の現状把握のみならず、建築当初の姿や改築・修理の歩みを示す「建築履歴」の記録が重視されている。洋風デザインに日本建築の技法を柔軟に取り入れた居心地の良さや、地域との調和、キリスト教的精神性、そして「程よさ」こそがヴォーリズ建築の特徴である。家具や調度品、光の入り方といった要素も含めて総合的に捉えることで、建物の本質的価値が明らかになるのである。こうした調査と記録は、建築遺産を次世代へ継承するための基盤であり、市民の理解と関心を支える重要な取り組みとなっているのである。



### 登壇者



東北学院大学准教授  
大門 耕平 氏



関西学院大学名誉教授  
ヴォーリズ研究センター長  
角野 幸博 氏



関西学院大学  
ヴォーリズ研究センター研究員  
山形 政昭 氏

ヴォーリズ来日120年記念事業

第6回(2025年12月7日)

総括講演

## 「愛と平和に満ちた共に生きる社会をめざして」

1941年にヴォーリズさんは「一柳米来留」として帰化する。日本の土となる決意の中でヴォーリズさんは国籍や文化を乗り越えて「平和」の使者として「愛と平和に満ちた共に生きる社会」をめざした。創設150年を迎えた同志社とヴォーリズさんの関りを踏まえて、同志社大学学長から総括講演をいただいた。また、地元の観音正寺管長との対談からはヴォーリズさんの足跡から、種々の壁を越えた相互尊敬と共生社会への実現を模索する指針についていくつかの示唆を得た。

### 報告：ヴォーリズの足跡を訪ねる北米旅考

団長：株式会社近江兄弟社 社長 辻 昌宏 氏

ヴォーリズ精神を正しく理解・継承するため、彼の生誕地や学びの地を実際に訪れ、風土や人々との交流を通して人間形成の背景を体感することを目的とした「北米旅考」が実施された。参加者はレブンワースの生家や教会、デンバー中央長老教会、コロラド・カレッジなどヴォーリズ<sup>ゆかり</sup>の場所を訪問し、音楽、信仰、教育、そして社会活動が彼の思想や行動にいかに深い影響を与えたかを肌で感じ取った。また、建築や医療、YMCA 活動に通じる原点も理解できた。

この旅を通じて浮き彫りになったのは、ヴォーリズが遠い存在の英雄ではなく、自らの環境と信仰に誠実に向き合い、理想を地道に実践し続けた一人の人間であったという事実である。その真摯な生き様を次世代へと繋いでいく決意が、改めて共有されたのである。

### 報告：韓国のヴォーリズ建築をめぐる祈りの旅

団長：大阪クリスチャンセンター 理事長 岸本 大樹 氏

本企画は、ヴォーリズが困難な時期に支えを受けた宣教師との歴史的交流の発見を契機として、その足跡を現地で確認するために行われた。大邱(テグ)の啓聖中学校、安東(アンドン)長老教会、鉄原(チョロン)第一メソジスト教会、ソウルの梨花(イファ)女子大学校、延世(ヨンセ)大学などを訪問し、教育・教会・医療の各施設に刻まれたヴォーリズ建築と、そこに宿る祈りの物語に触れたのである。

特に、戦争と迫害の記憶を今に伝える教会堂からは、平和への強い願いが感じ取られた。この旅は、ヴォーリズが貫き通した「神と人を愛する」という精神を、現代においていかに具現化すべきかを再確認する貴重な機会となった。

に富むものである。資料に基づきつつ、見えない内面を想像力で補うことこそが文学の役割であり、夫妻の歩みは現代を照らす物語になり得ると結論づけたのである。

### 3限：「九転十起」と「負けんとき」広岡浅子と一柳満喜子(対談)

作家 玉岡 かおる 氏 & 大同生命保険株式会社 執行役員 大枝 恭子 氏

第3限の対談では、広岡浅子と一柳満喜子、そしてヴォーリズとの関係を軸に、人物の魅力と「ドラマ化」の可能性が語り合われた。大同生命の大枝恭子氏は、浅子の実業家として炭鉱・銀行・保険事業を切り拓き、女子教育やキリスト教信仰を貫いた強靱な女性であったことを紹介し、朝ドラ『あさが来た』が社会や企業に与えた多大なる影響を振り返った。

玉岡氏は、史実の背景にある人間関係や信頼の積み重ねが、ヴォーリズの建築や満喜子との結婚を後押ししたことを指摘した。浅子の見る目や縁こそが、当時無名に近かった外国人建築家ヴォーリズを世に受け入れさせたのである。後半では、朝ドラ化の難しさとタイミング、地域全体で盛り上げ続ける重要性が議論され、ヴォーリズ夫妻を主人公にしたドラマ実現への夢を共有しながら、未来志向で語り合う貴重な対談となったのである。



#### 登壇者



元近江八幡市立資料館館長  
佐竹 章吾 氏



作家  
玉岡 かおる 氏



大同生命保険株式会社  
執行役員  
大枝 恭子 氏

## 総括講演：「愛と平和に満ちた共に生きる社会をめざして」

講師：同志社大学第35代学長 小原 克博 氏

小原克博氏による総括講演では、ヴォーリスと同志社創立者・新島襄の思想を補助線として、現代社会の課題と可能性が深く論じられた。まず、同志社創立の困難な歴史を振り返り、排除や偏見に抗い理想を貫いた新島襄の姿勢が紹介され、続いてヴォーリスが近江八幡を「世界の中心」と捉えて外国人として受け入れられながら地域に根ざした生き方に焦点が当てられた。その姿は、分断が進む現代日本において極めて示唆に富むものである。

ヴォーリスが作詞した同志社カレッジソングに込められた、国境を超えた人類愛や地球の一体性は、狭いナショナリズムとは異なる「祖国」観を示している。また、新島襄の「愛人論」や「社会改良」の思想を通じ、教育と徳を基盤に社会構造そのものを変革する必要性が語られた。分断、正義の衝突、SNSによる情報の偏り、環境問題といった現代の難題に対し、対話的正義、修復的正義、グローバル正義、環境正義、世代間正義といった新たな視点の重要性が強調され、ヴォーリスが掲げた「社会改革のために働く」という理想を継承していく使命が示されたのである。

## 対談：違いを認め、共生する社会を築く

同志社大学第35代学長 小原 克博 氏  
国際ワイズメンズクラブ西日本区次期理事 / 観音正寺管長 岡村 遍導 氏

小原学長と観音正寺の岡村遍導<sup>へんどう</sup>管長による対談では、ヴォーリスの思想と現代社会への示唆が語られた。多様な違いを抱えつつ、身近な地域で人類同胞性を育むことの重要性が語り合われた。異質な存在であったヴォーリスを包摂した近江八幡の歴史そのものが、共生の模範的な実例であるとされた。

仏教僧である岡村管長は、YMCAやワイズメンズクラブに関わる経験を通じ、宗教の違いを超えた理解と協働の可能性を説き、仏教とキリスト教の根底に共通する「愛」と「慈しみ」の精神を強調した。さらに、来日30年の際に書かれたヴォーリスの手紙や「大我」の書からは、宗教的寛容と利他的精神、そして地域への深い慈愛が読み解かれたのである。

終盤では、分断や無関心が広がる現代において、遠くの世界を嘆くよりも、まずは自らの足元の地域で行動することの大切さが語られた。祈りや対話を通じて自己を見つめ、身近な一歩を積み重ねることこそが、ヴォーリスの切望した平和と共生社会を現代に結実させる道であると結ばれたのである。

## Message from Vories in 1935

八幡町の皆様へ

満三十年近江八幡町の住民として暮らさせて頂きました。私は私のよき隣人としての皆様へ御礼状を差上げたいと存じます。殊に私は異国人として町の風習を知らずして、いろいろと失策をやりましたに拘わらず、寛大な心を持って迎えて下され、また近年は格別に、町民の一人として心よく住まわせて下さるのを心から感謝して居ります。

率直に申上ると、私は来朝当時の思ひや、活動振りに対して町の皆様が、よくもあれ位の誤解で辛抱して下さったものと、今から考えて冷汗がでます次第で、私が地を代へて八幡町生まれの日本人であったとしたら、もつとひどくヴォーリスなるアメリカ人をやつけたかも知れません。ですから、私は町のどの方に対しても、不愉快な記憶を持ちたりしては居りません。

私の心からの願ひは、町の皆様が私の過去に対して、一切の敵意や、疑ひのあらゆるものを、一切含さい解消して戴きたいことです。そして新時代に向かつては、御互に心広やかに協力して、八幡町やその付近の永久的の又根本的の進歩発達を、一生懸命に実現したいものと存じます。

我等は誠に新時代の民であります。旧来の誤解や敵国人扱ひは解消しつつあります。哲学的にも宗教的にも、よき主張に対しては非常に相互尊敬をする時代となり、古きものも古き形式も新時代化し、又改善されて来ました。新思想とか異国的のものとか言ふことに対しても、一概に憎む心が去りつつあります。電燈、電話、自動車、電車等は、世界的に人間の必需品ですし、家にしても近代風のもの、日光と新鮮な空気をとり入れ、衛生設備をつけることは、昔風の頑固な主張は通らなくなりました。

政府に於いても人生の旅に、個人的の宗教生活の重要さを、充分に認めて下さって居ます。

仏教は印度産ですが、国民の大衆の信仰となり、キリスト教はまた世界宗教として認められて居るのであります。神道は日本産で立派な宗教となったのです。今や信仰の様式に就いての争いや競争はなくてもよくなりました。皆どの宗教も真の神を求めて居ます。また真の人、真の世界を求めて居るのです。

真理は一つで、何処に行くも水や、空気や、火や、松の樹や、菊の花が、どこの国にも同じ一つのものであるのと相違がありません。

私は過去三十年の皆様の御親切に対して、御礼の心のしるしとして、茲に小さい『私の信念』を説明する『冊子』を封入しまして、簡単に明瞭に、私の宗教、私の人生観を披歴致しまして、八幡町の皆様と私の間の友情の益々深まらんことに、資したく思ひます。

もし、これがハッキリして居ませんでしたら、また興味をお持ち下さる方がありましたら、私の家にお訪問下さるなり、又お手紙を下さるなりして、私に面会下され、又お返事を詳細に差上げさせて頂きたいと存じます。

それから私は近江八幡町が好きですから、永久にここに居住したいと希(こいねが)っています。私の両親も私の弟と義妹も又私の話を聞いて、とうとう当地に来る心を合せて暮らして居てくれたのです。私の近親は、これで全部来てくれました、私の父の遺骨は、北の庄山麓恒春園に納めてあります。私も又骨を同じ山麓に埋めて貰ひます。この世界中で私の第二の故郷となった近江八幡町から、死を以てするも、私は離れたくありません。

昭和十年二月二日

メレル・ヴォーリス

「湖畔の声」1935(昭和10)年2月号掲載



「1938年・寅」 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(一柳米来留)作

この絵は、1938年(寅年)にヴォーリズが自ら描いた作品です。ヴォーリズが学んだコロラドカレッジの学生運動チームの愛称が「虎(Tiger)」であったことは、この絵に隠された遊び心を感じさせます。また、隣に書かれた「大我」という文字は、仏教で「真理に目覚めた自由自在な悟りの境地(利他の精神)」という意味があるとされています。

建築家、教育者、実業家として日本社会に大きな足跡を残したヴォーリズは、自らの名前を「米来留=アメリカから来て留まる」と表しました。署名に付記されている2つのマークには、キリスト教精神に基づく隣人愛の精神と、「神に導かれた近江八幡が世界の中心」という彼の想いが込められています。



登壇者



株式会社近江兄弟社  
社長

辻昌宏氏



大阪クリスチャンセンター  
理事長

岸本大樹氏



同志社大学第35代学長

小原克博氏



国際ワイズメンズクラブ  
西日本区次期理事/ 観音正寺管長

岡村遍導氏

総合司会(第1回~第6回)

モデレーター(対談)



言の葉OFFICEかの人代表  
フリーアナウンサー/朗読家  
神戸女学院大学卒  
同大学非常勤講師

川邊 暁美氏

第1回の基調講演から第6回の総括講演までの総ての総合司会を務めた。毎回、冒頭ではヴォーリズ著『失敗者の自叙伝』からの朗読を行い、総括講演ではヴォーリズ来日30年時に八幡町住民に宛てた感謝文の全文(P21掲載)を朗読した。第2回、5回、総括講演での対談モデレーターも務め、自身が卒業し、講師も務める神戸女学院大学キャンパスにまつわる体験も踏まえた司会は高く評価された。

記念講演(第1回~第6回)入場者数(イベント総入場者数:1,921名)

日程	講演会名	入場者数
2025年 2月 2日	第1回 基調講演「いま、なぜヴォーリズさんの?」	513
2025年 4月26日	第2回 テーマ「乙女建築なヴォーリズさん」~ヴォーリズさんと旅の楽しみ~	273
2025年 5月31日	第3回 テーマ「世界の中心でヴォーリズ サミット」	292
2025年 7月19日	第4回 テーマ「ヴォーリズさんのびっくりボン!」	263
2025年 9月20日	第5回 テーマ「ヴォーリズさん、満喜子さんをテレビドラマに!」	318
2025年12月 7日	第6回 総括講演「愛と平和に満ちた共に生きる社会をめざして」	262

## ヴォーリス来日120年記念事業

# フィールドワーク事業

建築、旅、そして市民活動へ。

国内外で実施された記念展示や探訪ツアー、ボランティアガイドなど、「実際に足を運び体感すること」を軸に展開されたフィールドワーク事業をまとめました。120年の節目に、多くの人々がヴォーリス氏の足跡と精神に触れた感動の記録です。

## ヴォーリス来日120年記念特別展

基調講演から総括講演までの全6回の講演に加え、ヴォーリス来日120年記念事業「バンザイなこっちゃ！」協議会ではさまざまな企画の立案や後援が行われました。また、ヴォーリス学園ハイド記念館では4つの「ヴォーリス来日120年記念特別展」が開催され、それぞれのテーマに沿った展示を通してヴォーリスへの理解をより深める機会となりました。

なお、9月2日から12月14日までの企画は、大同生命保険株式会社の主催により実施されました。

ハイド記念館・教育会館来館者数(イベント総来館者数:2,962名)

日程	イベント名	来館者数
2025年2月 1日(金)～ 3月30日(日)	「ヴォーリスの来日」	412
2025年4月26日(土)～ 6月29日(日)	桃井一至 写真展「VORIES TIME」	574
2025年7月 1日(火)～ 8月31日(日)	「ヴォーリスと平和」※8/11～18夏季休館	286
2025年9月 2日(火)～12月14日(日)	大同生命保険株式会社主催 「広岡浅子とヴォーリス・満喜子」展	1,690



ヴォーリス来日120年記念特別展  
ヴォーリスの来日  
2025年2月2日(日)～3月30日(日)

1905年、24歳という若さで近江八幡の地に降り立ったウィリアム・メレル・ヴォーリス。本展では、来日当初の日記に記された「ホームシック」「頭痛がする」といった言葉とともに、彼が異国の地で感じていた戸惑いや思いを紹介しました。展示されたゆかりの品々や当時の写真からは、一人の青年が孤独と向き合いながら新たな歩みを始めた姿が浮かび上がります。ヴォーリスの後の活動の原点に触れる、記念事業の幕開けにふさわしい展示となりました。



ヴォーリス来日120年記念企画  
桃井一至 写真展 VORIES TIME  
~featuring OTOME kenchiku~  
2025年4月26日(土)～6月29日(日)

写真家・桃井一至氏がレンズを通して捉えたヴォーリス建築の魅力を紹介する写真展です。近年、若い世代の間で「乙女建築」としても注目される視点が手ごかりに、「山の上ホテル」や「神戸女学院」などの名建築を写真作品として紹介しました。光と影の表情や細部の意匠に焦点を当てることで、ヴォーリス建築が持つ温もりや美しさを印象的に伝えています。建築ファンのみならず、多くの来場者にとってヴォーリス建築の魅力を改めて感じる機会となる展示となりました。



ヴォーリス来日120年記念企画  
特別展「ヴォーリスと平和」  
2025年7月1日(火)～8月31日(日)

建築家、教育者、そしてキリスト教伝道者として多方面で活動したヴォーリス。その歩みの背景には、平和への強い願いがありました。本展では、「戦争の苦しみと浪費を終わらせよう」という彼の言葉にも象徴される思想に焦点を当て、国籍や立場を越えて人々に寄り添おうとした姿勢や、その精神的背景を紹介しました。ヴォーリスの活動とともに平和への思いをたどることで、現代においてもそのメッセージの意味を改めて考える機会となる展示となりました。



ヴォーリス来日120年記念/加島屋400年記念  
「広岡浅子とヴォーリス・満喜子」展  
2025年9月2日(火)～12月14日(日)

明治期を代表する女性実業家・広岡浅子と、ヴォーリス、そしてその妻・柳満喜子。本展では、この三者の関係性を、広岡家ゆかりの加島屋400年の歴史とともに紹介しました。ヴォーリスの活動に関わった浅子の存在や、満喜子とともに取り組んだ教育・社会事業などを通して、それぞれの人物が担った役割や時代背景を多角的に紹介。旧大同生命ビルに関する資料なども交えながら、近代日本における人物交流と社会活動の広がりを伝える展示となりました。

# 【特別企画】ヴォーリスの足跡を訪ねる北米旅考2025

10月23日(木)～29日(水)、8年ぶりとなる「ヴォーリスの足跡を訪ねる北米旅考」を開催しました。高校時代に一家が通った教会、YMCA 活動の原点となったコロラド・カレッジ、そして氏の生誕地であり近江八幡市の兄弟都市でもあるカンザス州レブンワース市を訪問。日本へ船出した地・サンフランシスコも巡りました。近江八幡市議会議長をはじめ、市民18名が参加した深い学びの旅となりました。



**8年ぶり!!**  
ヴォーリスの精神をめぐる旅  
申込締切:2025年8月8日(金)

## 近江八幡市兄弟都市・レブンワース市 国際交流の旅 ヴォーリス足跡旅考2025

近江八幡市名誉市民第1号であるウィリアム・メレル・ヴォーリス氏は、今から120年前の明治38年、近江アメリカから来航され、10歳で近江八幡市にある現在の滋賀県立八幡高等学校の英語教師に就任されました。教師生活も近江八幡にとどまり、伝道のため建築設計で成功し、一橋美濃子氏と結婚、製菓等の輸入貿易をはじめ、教育、慈善、福祉、社会事業など多彩な活動を展開しました。ヴォーリス氏は、敬虔な信仰心とユニークな人柄で多くの人々を魅了しました。世界の中心は、近江八幡にありと見え、其の地を築いた彼の生き様は、今も生かされています。近江八幡を愛したヴォーリス氏は、どのような土地で、その人格を形成したのでしょうか。生誕地であるカンザス州レブンワース、子供の時から大学生まで伝道精神を燃やしたコロラド州デンバーへも、8年ぶりに足跡を訪ねる北米「旅考」を開催します。10月の間に、近江ヴォーリスが過ごした足跡を訪ねたい。近江八幡市長 小西 理 参加費様によって有意義な旅となることを心より願っております。

今年2025年は、私たちの創業者であるウィリアム・メレル・ヴォーリス氏が来日して120年のメレル・ヴォーリス・グループです。カザドコロンのマッセイ・ホールでの聖歌隊から海外伝道を目指し、キリスト教の輸入に基づき、神の国、民と平和に共に生きる社会の実現を目指し、生活を社会事業に開きました。伝道、建築、医療、教育、製菓などさまざまな分野で事業を展開し、近江八幡市に近江ヴォーリスグループとして根付いたヴォーリス精神を継承しています。このヴォーリスの理念と行動に影響を与えたものは家族からの愛情であり、キリストの教えであり、若き日のYMCAでの活動でした。幼少期に培った国際感覚もまた、活かされています。おかげで、人脈、大きく影響を受けたと書かれています。ヴォーリスの足跡を訪ねる北米旅考は1993年に始まり、コロナ禍を経て8年ぶり、14回目の企画となります。来日120年の大切な機会です。彼の生誕地を訪ねる学びの旅は、感動だけではなく、その土地、土壌、自然に触れ、全身でヴォーリス精神を感じてほしい。近江八幡市よりお待ちしております。

**旅行期間 2025年10月23日(木)～10月29日(水) 7日間**

**旅行代金 ¥728,000**

後援 公益財団法人 近江八幡市国際協会、アメリカカンザス州レブンワース市観光協会、ヴォーリス来日120年記念事業 パンザイなこっちゃん協議会

協賛 近江兄弟社グループ 旅行企画・美施 株式会社阪急交通社 大阪団体支店

- 一人部屋使用追加代金:120,000円
- 募集人員:30名(最少催行人員26名)
- お申込み方法:株式会社阪急交通社 大阪団体支店までお申込み下さい。
- お食事条件:朝食5回・昼食3回・夕食5回(軽食含む、機内食を除く)
- ご利用予定航空会社:ANAユニテッド航空
- 添乗員:1日自伊丹空港から7日自伊丹空港まで同行いたします
- お申込締切日:2025年8月8日(金) (定員になり次第、締切りさせていただきます)
- お申し込み方法:当社所定の旅行参加申込書に所定の事項を記入しお申込みください。旅行参加申込書は要面に記載の電話番号までご請求ください。インターネット予約もご利用いただけます。
- ご利用予定ホテル: デンバー・HAMPTON INN & SUITES DOWNTOWN CONVENTION CTR(指定) レブンワース・HAMPTON INN LEAVENWORTH(指定) サンフランシスコ空港周辺・BEST WESTERN PLUS GROSVENOR(指定)



日程	月日	地名	現地時刻	交通機関	概要	朝	昼	夕
1	10/23 (木)	伊丹空港	発 11:00	NH022	空路、羽田へ			
		羽田空港	着 12:15		羽田着後、各自成田空港へ移動			
		成田空港	発 16:30	UA142	成田発、デンバーへ			
2	10/24 (金)	デンバー国際空港	発 12:05	専用車	到着後、デンバー中央長老教会見学			
		デンバー	着 17:00		ホテルチェックイン			
		デンバー				徒歩にて夕食へ (デンバー泊)		
3	10/25 (土)	デンバー国際空港	発 9:57	専用車	専用車にてコロラドスプリングスへ			
		コロラドスプリングス	着 10:00		コロラドカレッジ訪問			
		デンバー	発 15:00		到着後、デンバーへ			
4	10/26 (日)	デンバー国際空港	発 9:57	専用車	専用車にてデンバーへ			
		カンザスシティ空港	発 12:39		徒歩にて夕食へ (デンバー泊)			
		レブンワース	着 14:30					
5	10/27 (月)	レブンワース	終日	専用車	統一長老教会にて礼拝			
		カンザスシティ空港	発 7:25		教会とボートラック			
		サンフランシスコ国際空港	発 9:12		午後市内観光とショッピング			
6	10/28 (火)	サンフランシスコ	着 20:00		徒歩にて夕食へ (レブンワース泊)			
		サンフランシスコ国際空港	発 7:25					
		サンフランシスコ	着 9:12					
7	10/29 (水)	サンフランシスコ	発 17:35		統一長老教会にて礼拝			
		成田空港	発 15:00		教会とボートラック			
		伊丹空港	着 18:55		午後市内観光とショッピング			



デンバー中央長老教会



2Fバルコニー席から(2025年10月23日)



講壇前(2025年10月23日)



レブンワース ヴォーリス生家前



コロラド・カレッジチャペル(2025年10月24日)



第一長老教会(2025年10月26日)

## 【特別企画】ヴォーリス建築を巡る韓国祈りの旅

韓国にも、今なお多くのヴォーリス建築が遺されています。11月11日(火)～14日(金)には「ヴォーリス建築を巡る 韓国祈りの旅」(主催:大阪クリスチャンセンター)が催行されました。大邱(テグ)や安東(アンドン)、鉄原(チョロン)、そしてソウルの梨花女子大学や延世大学を訪問。ヴォーリス氏らの働きや韓半島との歴史を辿り、これからの平和に想いを馳せる22名の有意義な旅となりました。

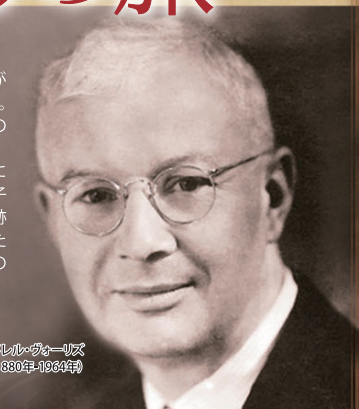
**2025年11月11日(火) ▶ 11月14日(金) ¥238,000**

ヴォーリス来日120年記念


# ヴォーリス建築を巡る 韓国祈りの旅 4日間

クリスチャン建築家として活躍したウィリアム・ヴォーリスが近江八幡の地に降り立ってから、今年で120年を迎えます。日本各地に優れた西洋式建築物を築いたヴォーリスは、その足跡を韓国にも残しています。

このツアーでは、専用車をチャーターし、専用ガイドと共にテグにある啓聖中学校やソウルにある南大門教会、梨花女子大学、朝鮮戦争で激戦となった鉄原の第一メソジスト教会跡などのヴォーリス建築を見て回ります。また、平和を願ったヴォーリスの思いを汲み、南北の軍事国境線(DMZ)近くのオドゥサン統一展望台や自由の橋(臨津閣)を見学します。




ウィリアム・ヴェレル・ヴォーリス  
(1830年-1934年)




梨花女子大学 竣工写真


お申込みの詳細は裏面をご覧ください



ソウルの南北境界線(自由の橋)



臨津閣(イムジンガク)公園



サムギョプサル

〈企画〉大阪クリスチャンセンター 〈写真提供〉公益財団法人近江兄弟社 〈後援〉ヴォーリス来日120年記念事業「ハンザイなこっちゃ!」協議会

### 日程表 (状況により変更の可能性があります)

月日	スケジュール	食事
1 11/11 (火)	9:30 関空集合 11:55 関空より仁川へ向けて出発 14:00 到着後、専用車で大邱へ移動 大邱到着後夕食 18:30 夕食後ホテルへ 【大邱泊】	朝食 機内食 夕食
2 11/12 (水)	午前 ホテル発 啓聖中学校(ヴォーリス建築) 午後 昼食(石焼ビビンバ) 専用車にてソウル市内へ移動 ソウル到着後、ホテルへ 各自で夕食 【ソウル泊】	朝食 昼食 夕食
3 11/13 (木)	8:00 ホテル発、専用車で南北境界線へ 10:00 オドゥサン統一展望台、臨津閣自由の橋 12:10 昼食(純豆腐チゲ) 14:30 鉄原平和展望台 15:30 鉄原第一メソジスト教会跡(ヴォーリス建築) 朝鮮労働党舎跡 18:30 ソウルにて夕食(カルビ焼肉) 20:15 ホテル到着 【ソウル泊】	朝食 昼食 夕食
4 11/14 (金)	午前 梨花女子大学(ヴォーリス建築) 延世大学(ヴォーリス建築) 南大門教会(ヴォーリス建築) 15:10 仁川空港から関空へ帰国の途へ 17:00 関西空港到着・解散	朝食 昼食 夕食

お申込み先

大阪クリスチャンセンター  
〒540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26-47  
【TEL】06(6762)7701 【FAX】06(6762)9885  
【E-mail】info@osakachristiancenter.or.jp

■旅行期間 2025年11月11日(火)～11月14日(金)  
(4日間)関西空港発着

■旅行代金 ¥238,000 [別途、燃料サーチャージ及び空港利用税が必要です。]

■旅行代金設定人数 25名以上(定員あり)  
ご参加者が25名様未満の場合は旅行条件が変更となる可能性があります。

■お申込み締切日 2025年9月10日(金)  
ご参加者集約後(25名に達した後)当センターと取扱旅行会社にて「受注型企画旅行契約」を締結します。

- 旅行代金に含まれるもの
- ①航空運賃/全行程エコノミークラス団体航空運賃
  - ②ホテル料金/旅程に基づくホテルの2人部屋料金
  - ③食料料金/朝食3回、昼食2回、夕食2回の料金
  - ④送迎料金/現地空港での出迎えから最終日の空港出発まで
  - ⑤観光料金/旅程に基づく見学・観光・入場料金およびバス代などの移動費用
  - ⑥税・サービス料/ホテル・食事代などに付加される税・サービス料
  - ⑦手荷物運搬料/お一人様スーツケース1個程度(23kgまで)
  - ⑧その他/添乗員の同行費用など

- 旅行代金に含まれないもの
- ①海外旅行保険
  - ②空港税・各地における空港税および燃料サーチャージ
  - ③洗濯代、電話代、飲物など個人的性質の費用
  - ④シングルルーム利用追加料金 希望者のみ(¥45,000)
  - ⑤その他、自由行動中の諸経費、日本国内の空港までの交通費など
  - ⑥食事の際の飲み物代(ビール、ジュース他)、その他個人的に飲食代

■取消料について

出発の40日前から21日前まで	旅行費用の20%
出発の20日前から3日前まで	旅行費用の30%
出発の2日前から出発当日まで	旅行費用の50%
旅行開始後の解除および無連絡不参加	旅行費用全額

※なお、お取消時にすでに渡航手続を開始または終了されている場合は、上記取消料のほかに渡航手続実費をお支払いいただきます。



梨花女子大 集合写真



鉄原(チョロン) 集合写真



安東(アンドン) 集合写真

## 【特別企画】豊郷小学校旧校舎群 見学会

日 時：2025年6月1日(日)  
 解 説：山形 政昭 氏 (関西学院大学ヴォーリス研究センター研究員)  
 参加費：1,500円 ※記念品付き  
 定 員：40名(満員御礼)

6月1日(日)、県内フィールドワークとして「東洋一の小学校」と称えられた豊郷小学校旧校舎群を訪問しました。ヴォーリス建築研究の第一人者である山形政昭氏(関西学院大学ヴォーリス研究センター研究員)の解説を仰ぎ、白亜の校舎を巡りました。階段の手すりに配された「兎と亀」の意匠や、細部まで意匠が凝らされた講堂など、建築に込められた教育への高い志と深い愛情を改めて体感する貴重な機会となりました。



豊郷小学校旧校舎群



## 【特別企画】「汽船でゆく今津ヴォーリス通り」～ガリラヤ丸の軌跡

日 時：2025年7月20日(日)  
 解 説：吉田 与志也 氏 (立命館大学社会システム研究所 上席研究員)  
 ※今津教会にて講演「湖西・湖北とヴォーリス」  
 参加費：13,000円 ※記念品付き  
 定 員：40名(満員御礼)

7月20日(日)、近江八幡の長命寺港から汽船に乗り、かつてヴォーリス氏らが伝道船「ガリラヤ丸」で航行した湖上の軌跡をたどって今津へ向かいました。上陸後は「今津ヴォーリス通り」の建築を見学。日本基督教団今津教会では、吉田与志也氏(立命館大学社会システム研究所 上席研究員)より「湖西・湖北とヴォーリス」と題した講演をいただき、氏と今津の地が結んだ深い絆について学びを深める一日となりました。



汽船乗船



旧今津郵便局



今津ヴォーリス資料館(旧百卅三銀行)



今津ヴォーリス資料館内 昼食



今津教会



吉田与志也氏講演(今津教会)

## ヴォーリス来日120年記念事業 ボランティアガイドツアー

近江八幡観光ボランティアガイド協会では、日頃より多彩なガイド活動を展開されていますが、本記念事業においては通常の建築公開とは別に、協会会独自の特別ツアーや展示を企画しました。地域を熟知したガイドの案内により、ヴォーリス氏の精神をより深く伝える機会となりました。

ヴォーリス来日120年記念企画

2025年 秋の特別公開のお知らせ 公開プラン ③

ボランティアガイドによる「ツッカーハウス・礼拝堂・五葉館」のご案内

日 程：2025年11月29日(土)、12月1日(月)・2日(火)・3日(水)・4日(木)・5日(金)・6日(土)

料 金：1,000円 ※記念品あり

参加数：72名

秋の特別公開では、市街地から離れた「北之庄地区」に位置する旧近江療養院(現・ヴォーリス記念病院)を拠点とする見学会を実施しました。1918年に結核療養所として開設された通称「ツッカーハウス」や五葉館、1937年築の旧礼拝堂を巡り、ヴォーリス氏らの「いのち」への深い慈しみを感じる建物群を、事前予約なしで多くの方々に体感していただきました。



ヴォーリス来日120年記念企画

観光ボランティアガイドツアー

日 程：2025年11月29日(土)・30日(日)、12月2日(火)・3日(水)・4日(木)・5日(金)・6日(土)

料 金：1,200円

参加数：74名

近江八幡の市街地に遺る代表的なヴォーリス建築を巡るツアーです。洋館が並ぶ池田町5丁目のウォーターハウスや、市井町のハイド記念館では内部も詳しくご案内。

さらに、設計第一号のアンドリュース記念館や旧八幡郵便局など、市街地に点在する主要な名建築を網羅しました。

ヴォーリス建築が織りなす町並みの魅力を丁寧に紹介する構成により、氏が愛した地域の歴史と風情を十分に味わっていただきました。



## 【特別企画】ヴォーリス来日120年記念企画「旧伊庭家住宅の所蔵展」

日 程：2025年11月22日(土)～26日(水) (※ 呈茶 11月24日(月)10:00～14:00 お抹茶)

近江八幡市安土町に佇む旧伊庭家住宅(1913年築)は、住友総理事を務めた伊庭貞剛が四男・慎吉のためにヴォーリス氏へ設計を依頼した、和洋折衷の美しい名建築です。ハーフティンバー様式の建物自体もさることながら、画家でもあった慎吉ゆかりの所蔵品も大きな魅力です。本展では、斎藤与里や近藤浩一路ら親交のあった芸術家の名品、貞剛らの墨跡など、伊庭家の豊かな人脈を物語る貴重な作品群を特別公開。ヴォーリス建築が育んだ地域の文化と、時を超えて受け継がれる交流の足跡を紹介しました。

〈展示作品〉

作品番号	作者名	作品名
No 3	古川 大航	観音
No 17	近藤 浩一路	横物紙本(春夏秋冬4幅)
No 21	斎藤 与里	安土の春
No 27	高倉 観崖	達磨
No 36	伊庭 貞剛	二行詩(幽翁)
No 38	伊庭 慎吉	八十八歳



旧伊庭家住宅の所蔵展来場者数

(イベント総来場者数：119名)

日 程	来場者数
2025年11月22日(土)	24
2025年11月23日(日)	32
2025年11月24日(月)	38
2025年11月25日(火)	9
2025年11月26日(水)	16



## ヴォーリス氏と満喜子夫人の歩みを、全国へ

ヴォーリス来日120年記念事業「バンザイなこっちゃん」協議会において、絶えず熱く語り合われてきたのが「ヴォーリス氏と満喜子夫人の生涯を、朝の連続テレビ小説に」という切実な願いでした。この声は、夫妻の生きざまや志に惚れ込んだ近江八幡内外の多くの方々から自然と湧き上がってきたものです。特に、華族の令嬢という立場を超えてヴォーリス氏の良き理解者となり、共に近江兄弟社や教育事業を切り拓いた一柳満喜子夫人の歩みは、今の時代を生きる私たちに深い共感と勇気を与えてくれます。



同じ志を抱き、近江の地で歩みを共にした二人の原点

この地域の総意とも言える願いを受け、現在は近江八幡市や滋賀県、観光団体、民間企業、そして個人有志による大きな応援の輪が広がっています。協議会期間中もテレビ局へ出向き、夫妻の物語がいかに現代社会に求められているかを伝え、要望書を提出する活動を重ねてきました。

9月20日には「ヴォーリスさん、満喜子さんをテレビドラマに！」をテーマに第5回記念講演を開催しました。もし二人の物語が映像化され、全国へ届けば、各地に遺るヴォーリス建築に新たな光が当たるとともに、夫妻が蒔いた「愛と平和に満ちた共に生きる社会」への願いの種が、さらに大きな輪となって未来へ広がってゆくことでしょう。



結びに代えて



京都新聞 2024年11月20日(水)掲載



滋賀報知新聞 2025年4月23日(水)掲載



中日新聞 夕刊 2025年1月27日(月)掲載

## ヴォーリス来日120年記念事業を終えて

2025年2月の初回から12月までの計6回にわたる講演会、ならびにツアー事業等に多くのご参加とご支援を賜りました。おかげさまで、すべての行事を盛況かつ無事に終えられましたこと、厚く御礼申し上げます。

本事業は、「愛と平和に満ちた共に生きる社会」というヴォーリス精神を、今だからこそ多くの方々に再認識していただくとともに、明るい社会の実現に向けた実践へとつながることを願い、スタートいたしました。振り返ってみれば、ヴォーリス氏の人生と同様に、本事業においても一人ひとりの一歩は小さくとも、共感の輪が広がり、仲間が増え、社会を変える大きな力となっていくことを実感する日々でした。

ヴォーリス来日120年事業は、今年度末をもって一区切りとなります。しかしながら、ヴォーリス氏や満喜子夫人、そして近江ミッション(近江兄弟社)をはじめ、志を同じくして多様な働きを成した国内外の多くの仲間たちの魅力を、まだ十分には伝えきれていないという思いもございます。

また、ヴォーリス夫妻を直接知る方々が少なくなる現実に直面し、加えて、各地で建築の保存再生に取り組む皆様のご苦勞も聞き及んでおります。

そのような現状を鑑み、当協議会では120年の歩みを止めることなく、できることから少しずつでも前へ進めてまいりたいと考えております。今回の取り組みをゴールとするのではなく、近江八幡市や滋賀県内、そして全国で活動する皆様の思いを結び、連携・協働できるネットワーク作りに励んでまいります。その先に、夫妻の歩みが朝の連続テレビ小説に取り上げられる日も近づいてくるのではないかと、期待を寄せております。

引き続き、私たちの活動にご注目いただくとともに、変わらぬご声援をお願い申し上げます。

最後になりますが、2030年にはヴォーリス生誕150年を迎えます。その時もまた、多くの皆様と出会うこと、そして多くの「バンザイなこっちゃん!」が聞こえてくることを楽しみにしております。

令和8年(2026年)3月吉日  
ヴォーリス120年記念事業「バンザイなこっちゃん!」協議会

会長 森嶋 篤雄

## ヴォーリス来日120年記念事業「バンザイなこっちゃん!」協議会 委員名簿

令和7年4月1日

役職	氏名	備考
会長	森嶋 篤雄	近江八幡観光物産協会
副会長	平松 清廣	近江八幡観光ボランティアガイド協会
副会長	三ツ浪 健一	公益財団法人近江兄弟社
監事	大野 恵延	関西みらい銀行
監事	郡 清隆	大同生命
委員	嵐 孝雄	近江八幡市
委員	杲 一哉	滋賀県
委員	川戸 良幸	びわこビジターズビューロー
委員	安川 千穂	ヴォーリス学園
委員	和田 哲政	平和堂、BBC 社外取締役

### [ 顧問 ] (順不同)

氏名	備考
三日月 大造	滋賀県 知事
小西 理	近江八幡 市長
田淵 結	ヴォーリス建築文化全国ネットワーク 事務局長
角野 幸博	関西学院大学ヴォーリス研究センター センター長

### [ 事務局 ] (順不同)

氏名	備考
田中 宏樹	近江八幡観光物産協会 事務局長(総務・広報)
上野 昌志	近江オドエアーサービス 渉外
宮村 利典	近江八幡まちや倶楽部 企画
藪 秀実	公益財団法人近江兄弟社 事業・会計

ヴォーリス来日120年記念事業 報告書  
ヴォーリスを未来へ  
来日120年、その想いをつなぐ

---

2026年3月31日 発行

発行：ヴォーリス来日120年記念事業「バンザイなこっちゃ！」協議会  
発行責任者：会長 森嶋 篤雄

編集・デザイン・印刷・製本：やまとびと株式会社  
用紙：表紙 ジェントルスクロス 175kg / 見返し TANT E-7 70kg / 本文 マットコート 110kg

© 2026 ヴォーリス来日120年記念事業「バンザイなこっちゃ！」協議会  
本書の無断転載・複写・複製を禁じます。